



## 水道事業管理職事務研修会

(東京会場：9月17日～9月18日、大阪会場：9月29日～9月30日)

東京会場43名の参加を得て「水道事業に係わる諸問題について」「水道料金の会計制度と財政の現状について―決算書の見方と留意すべき経営指標等―」「水道事業における危機管理―水質及び管路事故対応を中心に―」「地震等緊急時対応の手引き」「地下水利用専用水道等に係わる水道料金の考え方と料金案」について研修を実施した。

なお、大阪会場については53名の参加を得て「水道事業の会計制度と財政の現状について―決算書の見方と留意すべき経営指標等―」「水道事業の現状と課題」「水道事業における危機―水質及び管路事故対応を中心に―」「地震等緊急時対応の手引き」「地下水利用専用水道等に係わる水道料金の考え方と料金案」について研修を実施した。

## 平成21年度浄水場等設備技術実務研修会（第3回：10月6日～10月9日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々15名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに設備機器の保守・管理の実務について、研修を実施した。

## 第95回機械・電気・計装専門委員会（10月21、22日）

検討課題である水道施設における広域的な設備管理のあり方に関する手引書の作成にあたり、目次及び記述の要点について審議を行った。また、遠隔監視制御システムに関するアンケート調査について報告を行った。

## 第1回新JIS水道メータへの対応に関する検討会（10月22日）

規程に基づき田口工務部長が座長となり、報告事項1「水道メータをめぐる国際化の流れ」が(社)日本計量機器工業連合会 国際法定計量調査研究委員会副委員長の山本委員から、報告事項2「計量法改正の概要と新基準水道メータの特徴」の説明が事務局からあった。

続いて、審議事項1「検討会における調査・検討方針」、審議事項2「水道メータにおける



口径表示の取扱い」が事務局から説明され、審議の結果原案どおり了承された。

その後、報告事項3「計量範囲」、報告事項4「新基準水道メータへの切替時期」、報告事

項5「口径別料金への対応」の説明が事務局からあった。

#### 水道技術管理者研修会（10月29日～10月30日）

181名の参加を得て、「水道事業の現状と課題」「地震等緊急時対応の手引き」「米国における技術コンサルタントの実態と役割」「水道水質管理に関する最近の動向」について研修を実施した。

なお、本研修会では毎年特別講師として各界の著名な方に講演を依頼しており、今回は作家の立松和平氏が「私の水紀行」と題して講演を行った



#### 第225回衛生常設調査委員会（11月6日）

塩素酸の基準強化に対応して、日本水道協会規格 JWWA K 120「水道用次亜塩素酸ナトリウム」の改正案について審議を行い、現在の「一級」に比べ、塩素酸の含有量が1/2（2,000mg/kg以下）、臭素酸の含有量が1/5（10mg/kg以下）である品質について、新たに「特級」として設けることが了承された。

また、日本水道協会規格 JWWA Z 109「水道用薬品の評価試験方法」の改正案について審議を行い、ポリシリカ鉄への対応として、マンガン砂による汜過操作を追加することについても了承された。

次いで、残留塩素管理に関する調査結果（本誌10月号の掲載）の報告を行うとともに、シングルレバー混合水栓からの緑白色異物の流出に関しては、取りまとめ結果の説明を行い、製造メーカーの対応等について調査することとなった。更に、配管不要の投げ込み式残留塩素計（東亜 DKK 社製試作機）が紹介された。

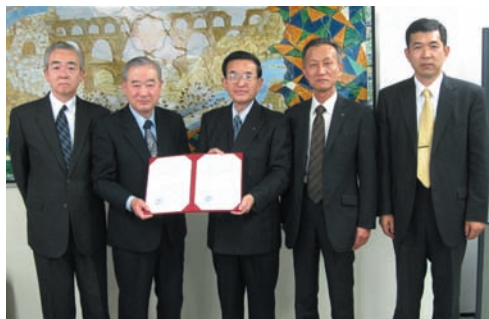


#### 第636回抄録委員会（11月6日）

本誌2月号に掲載する海外文献の抄録内容及び海外文献目録の和文題名について審議した。

### 水道 GLP 認定証授与式（11月9日）

水道 GLP 認定委員会で認定が決定した(株)北陸環境科学研究所（認定番号：JWWA-GLP053）の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



### 第150回水質試験方法等調査専門委員会（11月10日）

厚生労働省水道課竹谷基準係長から、平成21年6月に厚生労働省が開催した水質基準逐次改正検討会（公開）について、銅やカドミウムの基準の取り扱い等の議事概要と、現在それらのパブリックコメントを行っている旨の説明を受けた。



「上水試験方法2001」の改訂方針（分冊化等）について再確認を行い、各分会毎の作業

を行うとともに、平成21年度内に改訂作業を完了できるよう本格的なまとめ作業に入った。

### 第176回常任理事会（11月10日 於：リーガロイヤルホテル堺）

澤野堺市上下水道事業管理者から総会開催地代表挨拶の後、御園本会専務理事が議長となり議案の審議に入った。第1号議案「日本水道協会第78回総会の運営について」、第2号議案「次期総会の開催地について」、それぞれ事務局より配布資料に基づき詳細な説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。また、次期開催地に内定した渡邊松山市公営企業管理者より歓迎の挨拶があった。



## 第78回総会（11月11日～13日 於：堺市金岡公園体育館「大体育室」）

### 第1日目（11月11日）

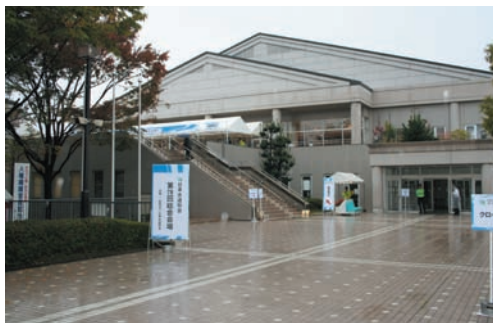
開会式においては、開催地代表として竹山堺市長、日本水道協会を代表して本会副会長の浅利豊中市長から挨拶があり、次に厚生労働副大臣（代理：粕谷健康局水道課長）、大阪府知事（代理：北山健康医療部次長）、星原堺市議会議長、渥美日本水道工業団体連合会副会長から来賓祝辞があった。

続いて表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として粕谷健康局水道課長より西山伸吾氏外84名の受章者に対し表彰状と記念品が贈られた。これに対して受章者を代表して、鎌田猛氏より謝辞が述べられた。

次に、日本水道協会会長表彰が行われ、本会副会長の浅利豊中市長から功労賞として鈴木孝三氏外8名、特別賞として土取敏男氏他107名、有効賞として浅見真理氏外8名、勤続賞として中辻定之氏外931名に対して表彰状と記念品が贈られた。これに対して全会長表彰受賞者を代表し、江郷道生氏から謝辞が述べられた。

昼食休憩後、定款の定めにより開催地の正会員代表として澤野堺市上下水道事業管理者が議長となり議事に入った。

初めに会務報告として、事務局より平成20年度本会事業の活動状況について、配布資料に基づく詳細な説明があった。



総会会場：堺市金岡公園体育館



開会式



日本水道工業団体連合会水道展



歓迎挨拶：  
竹山堺市長



開会挨拶：  
副会長浅利豊中市長



厚生労働副大臣祝辞：  
粕谷健康局水道課長



大阪府知事祝辞：  
北山大阪府健康医療部  
次長



祝辞：  
星原堺市議会議長



祝辞：渥美日本水道工業  
団体連合会副会長



議長(第1日目)：澤野堺市  
上下水道事業管理者



議長(第2日目)：  
七野堺市上下水道局長



事務常設調査委員長報告：  
川副横浜市水道局副局長



工務常設調査委員長報告：  
高橋横浜市水道局担当理事



衛生常設調査委員長報告：  
高橋仙台市水道局浄水部  
主幹



監査報告：菊田氏



次期総会開催地挨拶：  
渡邊松山市公営企業  
管理者



新役員代表挨拶、閉会挨拶：  
御園専務理事



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰

続いて、常設調査委員長報告として、事務常設調査委員長報告が川副横浜市水道局副局長より、工務常設調査委員長報告が高橋横浜市水道局担当理事より、衛生常設調査委員長報告が高橋仙台市水道局浄水部主幹より、それぞれ報告があった。

昼食休憩後、本総会が役員改選期に当たるため、議長から役員選任方法について諮ったところ、従来の慣例と時間の関係から役員選考委員会を設けて選考を付託し、その結果を受けて総会で審議決定したい旨の動議が提出され、満場一致でこの動議が採択された。

続いて、議案の審議に入り、第1号議案「平成20年度日本水道協会会計決算の認定」、第2号議案「平成22年度日本水道協会会計予算」について、事務局より提出資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、両案とも原案のとおり決定した。なお、第1号議案については、事務局の説明に続き監事を代表して菊田精氏から監査報告があった。

次に、午後の休憩時間に開催された役員選考委員会の選考結果について、役員選考委員会委員長の白井大阪市水道事業管理者より報告があり、報告のとおり新役員を決定した。また新役員を代表して御園専務理事より挨拶があった。

続いて、事務局より会員提出問題の討議に際して、例年、提案理由説明に対して関係各省より政府見解を頂戴していたが、先の政権交代により、本総会への関係各省担当者の出席がない旨の連絡があった。

その後、会員提出問題の討議に入り、補助関係として問題1「水道事業に対する財政支援の拡充及び要件の緩和について」、問題2「水道施設の再構築事業等に対する新たな財政支援体制の確立について」、問題3「簡易水道統合に対する財政支援について」が一括上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、災害対策関係として、問題4「水道施設の震災対策等に対する行財政支援について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、起債・繰出関係として、問題5「起債融資条件等の改善及び地方公営企業繰出制度等の拡充について」、問題6「公営企業借換債制度の実施及び条件緩和並びに政府資金の借換債制度創設等について」が一括上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、水源関係として、問題7「ダム等の水源施設の開発促進及び水利制度等の見直しに



記念講演：松本多加三氏  
「水と堺―陸と海のさかい―」



シンポジウム：公民連携の新たな展開  
―民間活力の導入―

ついて」、問題8「ダム建設に関する事業費の圧縮等について」、問題9「水利権許可の権限委譲及び水利権許可における条件緩和の推進について」が一括上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

引き続き、水質関係として、問題10「水道水源の水質保全対策等の強化について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

また、緊急動議として、水利制度を弾力的に有効利用できるようにして欲しい旨の発言があり、事務局より説明があった。

第2日目（11月12日）

前日に引き続き会員提出問題の討議が行われ、その他として、問題11「水道施設の更新・再構築に備えた基金制度導入の推進について」、問題12「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応について」、問題13「水道法の事業認可に係る規制緩和について」、問題14「指定給水装置工事事業者研修会の開催について」がそれぞれ上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

また、会員提出問題討議の終了時に会場より今まで以上に広域化・公民連携を推進して欲しい旨の発言があった。

次に、次期総会開催地の決定について、定時総会の開催地は、定款の定めにより、あらかじめ前年の総会で定めることとなっているため、第176回常任理事会に諮った結果、松山市と内定していただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で松山市に決定した。続いて、次期総会開催地を代表して渡邊松山市公営企業管理者より挨拶があった。

続いて閉会式に入り、日本水道協会を代表して御園専務理事より挨拶があった。

なお、休憩後には、「水と堺―陸と海のさかい―（講師：松本多加三 雑誌「堺泉州」編集長）と題した記念講演を開催した。また、午後には、「公民連携の新たな展開―民間活力の導入―」をテーマにシンポジウムを開催した。

第3日目（11月13日）

事務局設定3コースに分かれ、堺市の水道施設等を視察した。